

【飛島建設 オリコンサル 小水力発電 長野に3カ所目稼働 地域連携で維持管理】

## 小水力発電 飛島建設 オリコンサル 長野に3カ所目稼働 地域連携で維持管理

飛島建設とオリエンタルコンサルタンツが長野県安曇野市に建設していた「三郷黒沢川小水力発電所」が完成し運転を開始した。両社が手掛ける3カ所目の小水力発電所となる。計画段階から企業と地域、行政の3者が連携した再生可能エネルギー事業として施設を運営する。

所在地は三郷小倉260



発電機（最大出力193・7キロワット）

共用。かんがい設備の更新や水路の劣化補修を通じ地域負担となる維持管理費用を低減した。水路の清掃など維持管理の一部を地元水利組合に委託し、地域との協働で事業を進める。運転期間は20年間。

両社は岐阜県中津川市に2カ所の小水力発電所を運用中。山形県米沢市に建設中の4カ所目の発電所は10

月にも運転を開始する。

飛島建設土木事業本部の高橋宏之氏は「地元喜んでもらえ、うれしく思う。今後もクリーンエネルギーの創出に微力ながら貢献していきたい」と語った。オリエンタルコンサルタンツ関東支社の佐藤祐司氏は「地元との交流を継続しエネルギー分野以外でも何か貢献できれば」と話した。

9の2。2019年12月に着工し4月25日に運転を始めた。発電機は最大出力193・7キロワット。横軸クロスフロー水車を採用した。有効落差は93・6メートル、最大使用水量は毎秒0・276立方メートル。既存の取水設備・沈砂池の改修に加え、ヘッドタンクや水圧管路（直径450ミリ×1337メートル）、建屋を整備した。発電量や使用水量などはスマートフォンで遠隔監視でき不具合発生時にアラームで通知する。

建築・土木工事を山共建設（安曇野市、降幡真社長）、水車・発電機設置工事を日本小水力発電（山梨県北杜市、半田宏文社長）が担当した。

同事業では既存の農業用水路の一部を発電用導水路に活用し、新設する水圧管路をかんがい用水管として